【評価基準】 Δ⋅80%以上達成 B⋅60%以上達成 C⋅60%未満

| 項目     | 小項目(重点目標)   | 設   | 【評価基準】 A:80%以上達成 B:60%以上達成 C:60   |   | i 【アンケートの評価規準】◎:80%以上が肯定 ○:60%以上  | 評価資料                                   |                | アンケート                 |              | <br>-ト結 <b>男</b> |     |
|--------|---|-----|---|---|---|--|----------------|-----------------------|--------------|------------------|-----|
|        |   | 問番  | 評価指標及び目標値   | 評定  | <br>  学校による考察・改善方策  |  | 評価             | 肯                     |              | 否                |     |
|        |   | 台号  |   |   |   |  |                | 1                     | 2            | 3                | 4   |
| よく考え   | 〇生きて働く知識と<br>技能   |     | 児童が目当てをもって主体的に学習に取り組む指導や特別支援教育の視点に立った指導を行い、分かる楽しい授業を心掛け   |   | 〇設問1では、教職員の肯定率が昨年度よりも7%上昇した。国語科を中心にして、タ   | 教職員アンケート                               | 0              | 19%                   | 68%          | 13%              | 09  |
|        |   | 1   | 放教目の代点に立つた指导を11い、カルる米しい技术を心掛け<br>  た。   | A   | ブレットの利活用を含めた研究を進め、主体的・対話的で深い学びへと学習を展開する努力をしている。加えて、児童の約1/7が、学びの楽しさを味わえていないという結  | 児童アンケート                                | 0              | 48%                   | 38%          | 9%               | 5%  |
|        |   |     | 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)  |   | 果を真摯に受け止め、個に応じた学びを模索していく。   | 保護者アンケート                               | 0              | 43%                   | 54%          | 3%               | 09  |
|        | 〇思考力・判断力・表現力<br>〇主体的・対話的で深い学び   |     | 学力の定着を目指し、思考力・表現力の育成や基礎・基本の理  <br>を図ることに努めた。  | A C   | 〇設問2では、「あてはまる」と回答した児童の割合が、昨年度より8%上昇している。<br>日々の授業の工夫と継続的な家庭学習の取組の効果が表れているものと思われる。<br>とはいえ、昨年度と同様に約20%の児童が「わからない」と回答していることを受け止<br>め、さらなる授業改善を図りながら、学級担任や専科教員が協力して、個に応じた丁<br>寧な指導・支援をしていきたい。<br>〇設問3では、三者ともに昨年度と同程度の結果になっている。課題の与え方を工夫<br>したり児童が学習に取り組む意識を高めたりしながら、より一層、学校と家庭が連携し<br>て見届けを行い、適切な学習習慣の定着を目指していく。 | 教職員アンケート                               | 0              | 17%                   | 77%          | 6%               | 09  |
| ょ      |   | 2   |   |   |   | 児童アンケート                                | 0              | 43%                   | 34%          | 20%              |     |
| <      |   |     | 目標値: 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)   |   |   | 保護者アンケート                               | 0              | 31%                   | 58%          | 10%              |     |
| 学ぶ     |   |     | 家庭と連携し、家庭学習が身に付くように努めた。   |   |   | 教職員アンケート                               | 0              | 29%                   | 65%          | 6%               |     |
| 子      |   | 3   |   |   |   | 児童アンケート                                | 0              | 53%                   | 30%          | 15%              | 29  |
|        |   |     | 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)  |   |   | 保護者アンケート                               | 0              | 24%                   | 60%          | 14%              | 29  |
|        | ※は教職員のみへの<br>働き方に関する設問  | *   | 実効性のある業務改善に取り組み、児童一人一人に向き合う時間の確保やワークライフバランスに努めた。  |   | ○業務改善と教職員の意識改革の成果が少しずつ表れている。今後も、「勤務時間と職務の縮減」と「教職員としてのやりがいの維持」のバランスを取りながら、業務改善の努力を続けていかなければならない。   | 教職員アンケート                               | 0              | 26%                   | 39%          | 35%              | 0%  |
|        | ○認め合い、支え合い、高め合う集団<br>○いじめを許さない<br>子どもと教師<br>○人権・同和教育、<br>特別支援教育   |     | 家庭・地域と連携して心のこもった挨拶ができる児童を育てることに努めた。  目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2) 学級・学年などの活動を通して、認め合い、支え合い、高め合う<br>集団づくりを推進した。  目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2) 人権・同和教育、特別支援教育の視点を根底にして、教育活動 |   | 〇設問4の児童と教職員、設問5の児童の数値が上昇している。今年度は、挨拶について、<br>運営委員会による呼び掛けや保護者アンケートでの実態調査を基にした教職員の指導等<br>を重点的に行った。旗当番で見守ってくださる保護者の皆様や地域の見守り隊の皆様か<br>ら、挨拶がよくできるようになったとお褒めの言葉をいただいている。地域や家庭での励まし<br>の声掛けにより、成果が得られていることに感謝したい。   | 教職員アンケート                               | 0              | 29%                   | 55%          | 16%              | 09  |
|        |   |     |   | A   |   | 児童アンケート(家族)                            | 0              | 59%                   | 34%          | 5%               | 29  |
|        |   | 4   |   |   |   | 児童アンケート(地域)                            | 0              | 74%                   | 20%          | 5%               | 19  |
|        |   | 5   |   |   | 〇設問6と設問7では、三者ともに数値がわずかに下降している。全体的に肯定的な回答が多いものの、個々に様々なトラブルや悩みを乗り越えて学校生活を送っている様子がうかがえる。学年の発達段階に合わせてケースバイケースで指導・支援をしていきたい。また、  | 保護者アンケート(家族)                           | 0              | 39%                   | 50%          | 10%              | 19  |
|        |   |     |   |   |   | 保護者アンケート(地域)                           | 0              | 34%                   | 43%          | 18%              | 59  |
|        |   |     |   |   | 保護者との連携で解決し、子どもたちのよりよい成長につながった例も多かった。今後も、成長途中の子どもたちを温かく広い視野で見守り、支援していただけるようにお願いしていきたい。  A   | 教職員アンケート                               | <del> </del>   |                       | 58%          | 10%              |     |
| 思      |   | 6   |   |   |   |  | <u> </u>       |                       | 41%          | 10%              |     |
| い      |   |     |   | )<br>)  |   |  | H              |                       | 44%          | 5%               |     |
|        |   |     |   |   |   | 77%                                    | 6%             |                       |              |                  |     |
| のあ     |   | _   | 全体を通じて、豊かな心をもった児童を育てるようにした。   |   |   |  | H H            |                       |              |                  |     |
| ある     |   | /   |   |   |   |  | <del>- 1</del> |                       |              | 5%               |     |
| 子      |   |     | 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)  |   |   | 保護者アンケート                               | <del>  </del>  | 53%                   | 45%          | 2%               | 0   |
|        |   |     | 児童・保護者が相談しやすい体制を整え、いじめ・不登校・非行問題などへの積極的対応を心掛けた。  |   | 〇設問9(相談体制)の児童では、「あまり困っていない」が10%近く増えている。悩みごと・<br>困りごとがない方がよいとは一概に言えないが、安定した学校生活を送っている児童が増  | 児童アンケート(楽しさ)                           | 0              | 71%                   | 22%          | 5%               | 29  |
|        |   |     |   |   | えたと言える。一方、「相談していない」が13%と昨年度とほぼ同様であった。学級担任を含   |  | 0              | 55%                   | 39%          | 6%               | 09  |
|        |   | 8   |   |   | めて様々な立場の教職員が、児童との信頼関係を深め、児童が「困ったときにはいつでも相談できる・相談を聞いてくれる」という安心感に包まれるように、さらに努力していきたい。   | 児童アンケート(心配事)                           | 0              | 68%                   | 17%          | 11%              | 49  |
|        |   | 9   | A   | A   | A O「相談室」に外部委託の相談員がいるので、育児やご家庭での悩み等、何でも気軽に活用いただけるよう工夫したい。  | 教職員アンケート(相談体制)                         | 0              | 45%                   | 55%          | 0%               | 09  |
|        |   |     |   |   |   | 児童アンケート(相談体制)                          | 0              | 57%                   | 18%          | 12%              | 139 |
|        |   |     |   |   |   | 保護者アンケート(相談体制)                         | 0              | 49%                   | 45%          | 5%               |     |
| 学校関係者評 | 目標値: 教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)  ○勉強が楽しい・よく分かると答える児童の割合が高く、すばらしいと思います。 ○学習の理解度や挨拶の仕方には個人差があるようです。 ○タブレットを活用した学習は、積極的に行っていただきたい。 ○特別に秀でた能力を持つ児童への対応が大切だと思います。 ○20%の児童が分からないと答えています。家庭と協力して指導をお願いします。 |     |   | <br>  ○タブレットの利活用は、様々な教科等でどのような活用方法があるか試行を積み重ねてき加えて、児童もタブレットを活用するよさを実感し、使い方に慣れてきている。今後も、学習の付け、学習内容の定着とねらいとする力を育むために最適な学習方法を模索していきたい。<br>  ○上述しているように、本校では、国語科を中心にしてテキストを的確に読み取り、豊かな語 | <br>*た。それに伴い、<br>)ねらいを達成する  | 舌用の幅<br>ための一                           | が広が<br>-つの手    | り質も向<br>段や方           | 上してに<br>法として | いる。<br>C位置       |     |
|        | 〇文章力を鍛える取組は、近<br>〇人間関係のトラブルは時々  | い将3 | :ころです。これからも楽しく分かる授業をお願いします。<br>そ、社会人になってからも役立っていきます。<br>けられますが、友達を思う気持ちや優しい気持ちはそれぞれ持っていると思います。<br>生活の中で育ってほしいと思います。それに関わる私たちがサポートをできたらと思                                  |   | ○ 工がしているように、本校では、国語科を中心にしてデャストを的確に読み取り、豆がな話めている。研究内容を日々の授業に落とし込み、児童にとって「楽しく分かる授業」を目指して<br>○ 学級担任はもとより、児童の教育に携わる全教職員が、それぞれの立場を生かして、児童<br>  具体的で実のある連携を充実して、それぞれの役割を自覚しながら一体となって健全育成を   | て、日々取り組んで<br>・<br>・<br>・<br>の健全育成にかった。 | いきたい<br>かわってし  | <b>\</b> <sub>0</sub> |              |                  |     |

- 〇松前町では、働く外国の方が増えています。児童の中では国際化が当たり前になっていく中、地域の大人も国際化と多様性を積極的に認めていけるとよいなと思います。 〇相談体制が整っていてよいと思いますが、相談できにくい児童へのきめの細かい支援を望みます。 〇思いやりの心と、家庭内で育まれる部分が多いです。学校では、集団生活の中で育つものとして、しっかりと教育していますがよりです。
- の
- 所 でいただきたいです。 〇個々に悩みを抱える児童への多様な対応をお願いします。 〇多様な児童に対して、教職員が少しでも理解を高めようとする姿勢がうかがえます。

○近年、児童や家庭が抱える問題や悩みも多様化している。学校としての役割を再認識し、地域や他の相談機関とも連携しながら、きめの細かい対 応をしていきたい。

〇本校区は教育力が高く、地域の方々や保護者による見守り活動のおかげで、登下校の安全が図られている。教職員も分担して定期的な登下校 指導をしている。不審者事業の発生時には、見守り活動をその都度強化していただき、大変有り難い。登下校時の児童間のトラブル等において、学 校で詳細に事情を聞き、指導している。

| 項目     | 小項目<br>(重点目標)  |    | 評価指標及び目標値  |   |  | 評価資料                  |     | アンケート結果    |               |               |    |
|--------|--|----|--|---|--|-----------------------|-----|------------|---------------|---------------|----|
|        |  |    |  | 評定  | 学校による考察・改善方策   |                       | 評価  | 肯          | 定             | 否             | 定  |
|        | V—   |    |  |   |  |                       |     | 1          | 2             | 3             | 4  |
| 粘り強くやり | 〇目標に向かう意志<br>力<br>〇気持ちのよい挨拶<br>と望ましい生活習慣   |    | 家庭と連携して、「早寝・早起き・朝ごはん運動」、家の手伝い、整頓等の基本的な生活習慣の定着に努めた。                                 | A   | 〇設問10「早寝・早起き・朝ごはん」では、特に児童の結果が悪くなっている。近年は、睡眠時間が足らなかったり効率的な時間の使い方ができなかったりする児童が一定数見受けられる。また、低年齢化も進んでおり、望ましい生活習慣が身に付きに   | 教職員アンケート              | 0   | 20%        | 61%           | 19%           | 0% |
|        |  | 10 |  |   | くい環境にある。ゲーム機やスマートフォンを使用して、ゲームや動画視聴、SNSに費やす時間が多くなっているのが最大の原因のようだ。家庭で「ゲーム機やスマートフォンの使い方の約束」を話し合い、約束を守ることで効果を上げている例もたくさん見ら   | 児童アンケート<br>- 保護者アンケート | 0   | 44%        | 37%<br>47%    | 13%           |    |
|        |  |    | 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)<br>望ましい食習慣の形成や自らの健康に関心をもたせ、健康づく<br>りや体力つくりに励むように配慮した。 | Δ   | い。  〇設問11「健康づくり・体力つくり」でも、特に児童の結果が悪くなっている。春からは、外遊びの有効性を指導しつつ、意図的に屋外での群れ遊びをする機会を増やしていたが、児童の実感としては不十分であった。秋から冬にかけては、感染症も流行した。児童の体力と免疫力を高めるために、2~3年の長いスパンで計画的に指導を積み重ねていきたいと考えている。心も体もたくましい岡田っ子を目指していきたい。                                 | 教職員アンケート              | 0   | 23%        | 65%           | 12%           |    |
|        |  | 11 |  |   |  |                       | 0   | 47%        | 31%           | 16%           |    |
|        |  |    |  |   |  | 保護者アンケート              | 0   | 33%        | 47%           |               |    |
| ú      | 〇体力つくりとたくま   |    | 標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)<br>  庭や地域と連携し、登下校の安全確保や不審者対策等によ                        |   | <br>○設問12「交通ルールの順守」では、昨年度と同様に、三者ともに高い肯定率となっ  |                       |     |            |               |               |    |
| く<br>子 | しい体  | 12 | る安心・安全な学校づくりを推進した。   |   | た。特に児童の意識は高く、実際の登下校の様子や自転車の乗り方・ヘルメットの着用の様子を見ても安全意識の高さはうかがえる。最近は、ヘルメットをかぶらずに自転車に乗っている児童は見なくなった。とはいえ、命を守る指導にやりすぎはなく、引  | 教職員アンケート 児童アンケート      | 0   | 39%<br>83% | 55%<br>15%    | 6%<br>1%      |    |
|        |  | '- | 目標値:教職員、児童、保護者の80%以上が肯定(1・2)   |   | 古続き、学校と家庭・地域が連携して、繰り返し巻き返し指導していく必要がある。   | 保護者アンケート              | 0   | 45%        | 52%           | 3%            |    |
|        |  |    | 古標値:教職員、光堂、床設省の80%以上が肯定(1-2)<br>定期的な点検を行い、施設・設備の安全管理に努めた。                          |   | 〇設問13「安全な環境づくり」では、教員が毎月安全点検を行い、危険箇所の早期発<br>見に努め、優先順位を決めて修繕等を行っている。今年度は特に、教職員の肯定率   | 教職員アンケート              | 0   | 42%        | 45%           | 13%           | 0% |
|        |  | 13 |  | A   | が高まった。マンネリ化を防ぐとともに、児童の目も借りながら注意深く点検を継続していきたい。  | 保護者アンケート              | 0   | 45%        | 52%           | 3%            | 0% |
|        |  |    | 目標値:教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2)  | <u> </u>  |  |                       |     |            | $\rightarrow$ | $\rightarrow$ |    |
| 家      | 家庭・地域との<br>連携  |    | 学校の情報発信をするとともに保護者や地域住民との連携が図られている。   |   | ○設問14では、昨年度と同様の結果であった。今年度は、保護者・地域の方々にご来校いただく機会が増え、教育活動を直接見て感じていただくことができた。学年・学校通信、ホームページ等を通して、教職員からの情報発信をさらに充実しなければならないと考えている。その中でも、学校教育への関心度が高いのは、岡田小学校の保護者の教育力の高さを物語っている。   | 教職員アンケート(情報発信)        | 0   | 34%        | 66%           | 0%            | 0% |
| 庭・地域   |  | 14 |  |   | 〇設問15では、家庭や地域からの声に、「迅速に」「誠実に」お答えしていくことを前提として、教職員全員で役割分担をしながら取り組んでいる。教職員の手ごたえとしては、昨年度よりも10%上昇しており、よい傾向となっている。しかしながら、個別のことについては、十分な対応ができておらず、保護者や地域の方々にご迷惑やご心配をおかけしていることもあった。今後もそれらの反省を生かして、しっかりと情報を共有し連携を図っていく中で、信頼関係を構築していきたいと考えている。 |                       | 0   | 45%        | 49%           | 6%            | 0% |
|        |  |    | 目標値: 教職員、保護者の80%以上が肯定(1・2)   |   |  | , 教職員アンケート(対応)        | 0   | 48%        | 52%           | 0%            | 0% |
|        | 日保1個: 教職員、休護石の80%以上か育定(1・2)  ○時間内ではできなくても、そこまでできたことを評価する姿勢が大切です。 ○交通ルールの順守では、83%の児童ができていると自己評価していますが、登校の様子では、2列歩行や中央へのはみ出しが気になります。1列歩行を繰り返し指導してください。 ○先生方がよく登校指導をしてくださるので、ありがたいです。児童は、先生方の姿を見ると、挨拶の声が大きくなり歩き方もよくなります。 ○通学路の変更について保護者にもしっかりと伝えていただきたい。また、左側通行から右側通行になる四つ角での安全確認の徹底をお願いしたい。 ○休み明けや雨の日・風の日など、保護者が連れて行っている家庭が多くなっています。 ○運動会等での児童のやる気や粘り強さを知ることができました。そのためには、心身ともに健康でなくてはなりません。 ○健康であるための基礎体力づくりをお願いします。 ○後拶はよくしてくれます。特に1年生はしっかりとしてくれます。  |    | ま 顔 いた でかめ 学校の対応   | ○登下校の様子について、リアルタイムで情報をいただけることに感謝したい。日々の学級指導や通学班会等で指導を継続しているが、さらに具体的な指導に努めていきたい。   |  |                       |     |            |               |               |    |
|        |  |    |  | 〇挨拶について、校内での教師や友達、来客への気持ちのよい挨拶や会釈がよくでま<br>指導の結果であろう。通学班では、高学年の児童が模範となり、元気で気持ちのよい<br>の皆様の温かい挨拶と言葉がけが児童の挨拶への意欲を高めている。   |  |                       |     |            |               |               |    |
| 学<br>校 | ○地域でもほとんどの児童が挨拶をしてくれます。今後ともできる限り児童と接する時間を多くして見守っていただきたい。 ○全ての項目で児童のことをよく考えて指導をされているのは大変ありがたいです。夢と志を持つ児童を育成してもらいたいと思います。 ○冬期に、5時までに帰宅するというルールを知らない家庭もあります。児童館の利用時間も知らず、自分の家のルールを主張する児童もいます。 ○今の素直な気持ちと思いやりの心を持ち続けてほしいと思います。様々なことで情報共有と協力ができることを願っています。 ○ココヤ禍も収束し、学校・家庭・地域の連携も少しずつ取り戻しつつあります。家庭内での会話の時間や機会も増えるようにしていただけたらと思います。 ○ココヤ禍も収束し、学校・家庭・地域の連携も少しずつ取り戻しつつあります。家庭内での会話の時間や機会も増えるようにしていただけたらと思います。 ○少しずつ以前のとおりに、また、新たな取組にて公開されていることに対して、うれしくもあり感謝もしています。 ○元気な子どもたちの姿から地域の入も元気をもらっています。 ○人権教育の中に、多様性の理解、国際人としての感覚、帰血なお互いを認め合う気持ちが育てば、争いのない世界につながると思います。 ○家庭や学校ではなく、違った接し方ができるのが地域だと思います。地域でできることを引き続き模素していっていただきたい。 ○地域では年間を通して様々な行事を行っています。その中で、子どもたちできる限り参加し、異世代交流ができるとすばらしいと思います。 ○地区の運動会等で、児童が積極的に参加して盛り上げていることに感心しました。 ○児童や家庭の多様性に対応するのは大変だと思いますが、引き続きよろしくお願いします。 ○登下校の見守りなど、地域・学校ともに熱心に取り組んでいることに感心しました。 ○登下校の見守りなど、地域・学校ともに熱心に取り組んでいることに感心します。それぞれの立場で無理なく子どもたちの成長に寄与できればと思います。 ○発性別言が対する真摯な対応、ご苦労様です。 ○保護者に信頼されている学校であることは、単に学校や児童だけでなく、地域も明るくしてくれます。 ○学校評価に対する真摯な対応、ご苦労様です。 ○保護者に信頼されている学校であることは、単に学校や児童だけでなく、地域も明るくしてくれます。 ○学校評価に対する真摯な対応、ご苦労様です。 ○学校評価に対する真摯な対応、ご苦労様です。 ○全体的に厳しい視点で考察されています。決して無理をせず、先生方の健康保持を最重要と考え、できる範囲での課題解決を望みます。 ○先生方がオーバーワークにならないような体制づくりをお願いたけ、 |    |  | 〇コロナ禍が明け、学校行事の多くは、新しいカタチとして実施することができた。保証<br>子を見ていただき、適宜ご意見をいただきながら、改善と充実を図っていきたい。   | 護者をはじめ、外部 かんしょう かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かい  | 部からの                  | 参観者 | に児童の       | の学びの          | の様            |    |
| 関係者評   |  |    |  | 〇本校の全教職員は、それぞれの立場や役割を自覚し、全力で務めを果たしている。しかしながら、一人一人の児童への指導・支援が不十分であり、保護者の方々としっかりとした共通理解の上に立ったかかわりができていないこともある。私たちは、日々の営みを謙虚に振り返り、迅速に対応・改善していくことによって、その務めを果たしていきたいと考えている。保護者や地域の方々からの励ましや温かい言葉、児童の学びを温かく見守る姿勢に感謝したい。 |  |                       |     |            |               |               |    |
| 委員の所見  |  |    |  | ○今後も、保護者や児童の健全育成に携わってくださっている地域の方々に、児童のまた、対面の機会を生かし、親交を図ることで、高い教育力を生かしていきたい。   | 学びの様子をお  | 伝えする                  | 機会を | 充実して       | こいきた          | こい。           |    |
|        |  |    |  |   |  |                       |     |            |               |               |    |